

「四国総合通信局 新局長着任記者会見」を開催

- ・ 総務省 四国総合通信局では、令和 8 年 8 月 4 日付けで局長が交代したこととともない、同月31日、新たに局長となった 森下 信（もりした しん）の着任記者会見を開催しました。（四国管内の報道機関 8 社が参加）
- ・ 記者会見は、森下局長からの就任あいさつと自己紹介から始まり、事前に報道機関から寄せられていた質問に答える形で進行了。会見で森下局長は、「ICTを活用して四国における産業の活性化、社会課題の解決、生活の利便性の向上などにつながる仕事を前に進めてまいりたい」と抱負を語りました。

会見要旨

【今後の抱負について】

これまでの仕事での関わりから、現在も関心事項でもある情報通信技術や自動運転技術などを活用した道路交通システムの高度化、衛星データの活用の推進なども、機会があれば取り組みたいテーマです。

そういった取組を進めるには、情報通信分野以外の様々な企業や関係者の方々、各省庁や関係機関との連携が重要になりますので、これまでの経験も生かして、四国の様々な関係の方々とは対話させていただき、取り組んでまいりたいと思っています。

【四国が抱える課題について】

人口減少や少子高齢化の進行、そして南海トラフ地震などの大規模災害、地域産業の担い手不足、さらには都市部とのデジタル格差などが大きな課題であると認識しており、こうした課題に対し、情報通信は「地域を支える基盤」として重要な役割を果たせると考えています。あらゆる分野でデジタル技術を活用し、課題解決できるよう、その前提となる光ファイバやローカル5Gなどのデジタル基盤の整備を後押しするとともに、地域社会のDX推進に向けた取組を進めます。

【激甚化する災害に向けた取組について】

南海トラフ巨大地震や激甚化する豪雨災害に対し、災害時においても通信手段を確保し、正確な情報を迅速に届けることは、人命と暮らしを守る上で極めて重要な取組です。このため四国総合通信局では、平時から通信・放送事業者や自治体、防災関係機関との連携を強化し、災害に強い情報通信基盤の整備や実践的な防災訓練に取り組んでいます。

引き続き、関係機関との連携を一層深めながら、災害時にも必要な情報が確実に届くよう、万全の備えを進めてまいります。



＜森下局長の会見＞



＜会場の様子＞